

シリーズ **母国の風景**

ハイドパーク市(アメリカ)

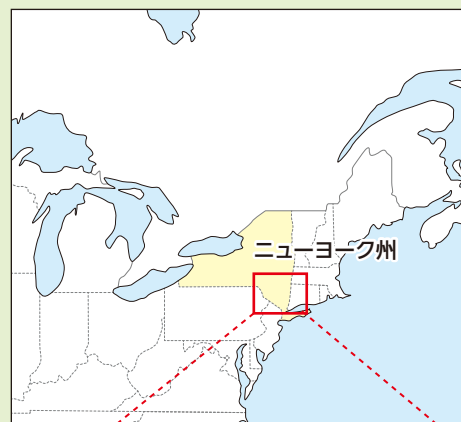
私の故郷は、ニューヨーク州ダッチェス郡にあるハイドパーク市です。この街はニューヨーク市から北へ約2時間の場所にあります。ニューヨークを単にニューヨーク市と勘違いする人が多いのですが、ニューヨークの人口の45%はニューヨーク市に住んでいます、ニューヨーク市はニューヨーク州の面積のわずか1%を占めるに過ぎません。この事実を話すと、ほとんどの人は驚きます。

ハイドパークは、ハドソン川沿いの美しい川と自然の景色、そして遊歩道でも知られています。ハイドパークの気候は日本に似ており、冬は寒く、夏は暑く湿度が高く、5月から9月は雷雨の季節です。特に人気のある場所は、「ミレア・ワイナリー」です。受賞歴のあるスパークリングワインと持続可能なワイナリー文化を誇るブドウ園です。毎年開催される一大イベント、「ダッチェス・カウンティ・フェア」では、賑やかな音楽、遊園地の乗り物やカーニバル風のゲーム、地元のお店などが楽しめます。また、農家が家畜を展示・販売し、賞品を獲得するイベントもあります。もう一つの有名なイベントは、10月に開催される「シープ・アンド・ウール・フェスティバル」です。このイベントには、編み物やかぎ針編みをする数百もの出店者が集まります。ワークショップやフリースショー、そして大人気のアップルサイダー・ドーナツなども開催されます。

ニューヨークはリンゴの種類の豊富さで知られており、私の街ではリンゴ狩りが大きな伝統となっています(私のお気に入りには「エンパイアアップル」。とても酸っぱくてサクサクです!)。観光客に人気のシーズンは、9月から11月下旬にかけての美しい紅葉シーズンで、前述の通り、この時期はリンゴ狩りのピークです。地元の農家の新鮮な農産物が豊富な静かな休暇、アップル・ドーナツとホットアップルサイダーを楽しむ農場への旅、ハドソン川沿いの美しい自然散策をお探しなら、ニューヨーク州ハイドパークという小さな町を強くお勧めします。



マルカーネ レア マリー
(横浜市立大学)



よこはま地球村

横浜市国際学生会館ニュース

学生会館のマスコット
ラブアースベア



春
spring

2026
No.127

横浜市国際学生会館は、留学生等への宿泊施設の提供と市民の国際理解を目的として横浜市が開設し、公益財団法人 横浜市国際交流協会が指定管理者として管理・運営しています。

横浜市国際学生会館2025年度主催事業

留学生による文化講座 ～南アフリカ～ ーその多様な自然、文化と人々の暮らしー



12月20日(土)
開催しました!

日本から遠く離れた南半球にある南アフリカ共和国は、国の位置はアフリカ大陸の南端で分かりやすいのですが、そこでどのような人たちがどんな生活をしているのかを知っている人はあまりいないでしょう。

今回の文化講座では、そんな南アフリカからやってきた留学生が母国について大いに語りました。内容は南アフリカについて多岐にわたり、来場の方たちは興味深そうに聞き入っていました。さらに南アフリカ発祥のルイボスティーや、講師が自ら調理した「ファッジ」という菓子が振舞われ、南アフリカ気分を満喫しました。

来場の方たちからは「今まで知らなかった南アフリカについて知れてよかった」、「講師の人柄が出て温かな講座だった」、「知らないことばかりでとても新鮮に感じた」等の感想が寄せられました。



今回の講師

12月20日に南アフリカについてのプレゼンテーションを行いました。とても楽しい時間になり、ご参加くださった皆さんに心から感謝します。

プレゼンでは、南アフリカには首都が3つあること、ノーベル賞受賞者の数がスペインとポルトガルを合わせた数より多いこと、さらには動物がお酒に酔う仕組み(本当です!)など、たくさんのお話をしました。南アフリカの音楽を流したり、伝統的な風習を紹介したり、さまざまなメッセージを伝えるためのハンドサインも紹介しました。また、プレーンのものとクルミの入ったファッジ、たくさんドライフルーツ、ルイボスティーなどを用意しました。

ぜひ皆さんに今後もYISHのプログラムに参加して、こうした楽しい活動を体験してほしいと思います。今後またお会いできるのを楽しみにしています。

(講師プロフィール)
慶應義塾大学大学院博士課程2年生
趣味は読書・ヨガ・ピアノ演奏

自治会の餅つき大会に参加しました!



初めての
餅つき体験
でした!



12月14日に地元自治会の餅つき大会に学生会館から多くの留学生が参加しました。

留学生たちは初めて見る日本の風習に驚きながらも、積極的に餅つきにトライしていました。

つくたての餅ができる自治会婦人部の方たちがあんな餅やきなこ餅にしてくれたので、みんなでおいしくいただきました。



地球村のある日の風景



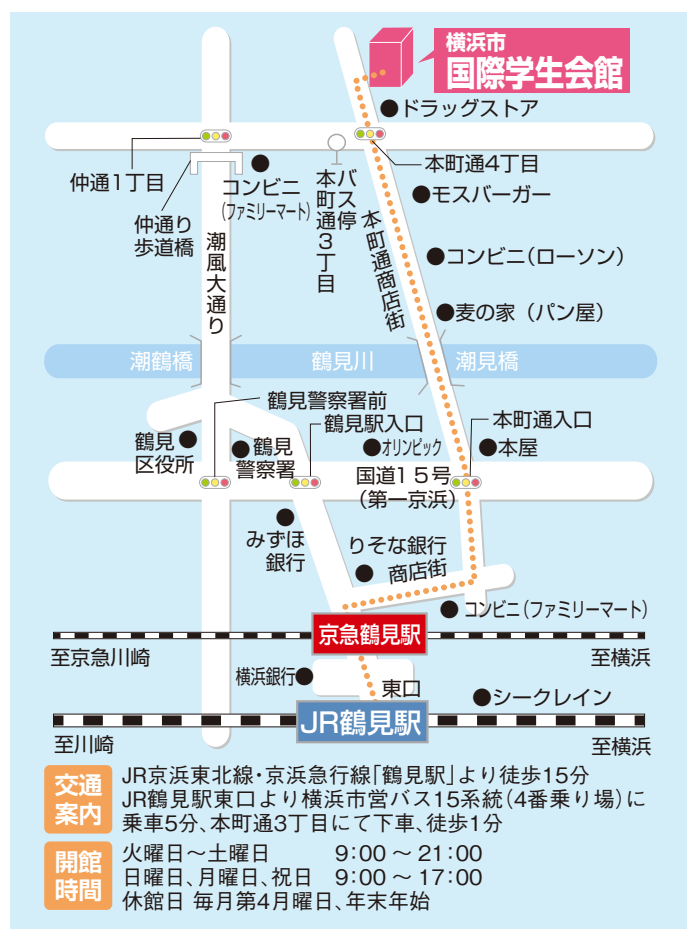
12月26日今年も鶴見在住の飯島様からカレンダーをいただきました



12月13日地震避難訓練を行いました



ミャンマー地震の緊急募金を届けました



■発行: 横浜市国際学生会館 (YISH)
〒230-0048 横浜市鶴見区本町通4-171-23
Tel.045-507-0121 Fax.045-507-2441
Email: yish@yoke.or.jp
ホームページ: <https://yish-yoke.com>
■印刷/デザイン: ツルミ印刷株式会社

横浜市国際学生会館ニュース

よこはま地球村

2026年 春号
2026年3月1日発行 第127号

RAの地域イベント参加報告

留学生の生活をサポートするために学生会館には7人の日本人学生がRA（レジデントアシスタント）として住んでいます。今回は留学生と一緒に参加した地域イベントの報告です。

10/12 地域運動会

10月12日、地域の運動会にYISHの留学生が参加しました。ラジオ体操や玉入れなど、日本の運動会文化を地域の皆様と一緒に体験させていただきました。400m走では、YISHの学生が1位・2位でゴールするという嬉しい場面もあり、会場の皆様からも多くの拍手をいただきました。スポーツを通じて地域の皆様と交流を深めることができ、学生たちにとっても素晴らしい経験となりました。

吉澤竜哉（写真2番手走者）



10/12 つるみワールドフェスティバル



県立三ツ池公園で開催された、つるみワールドフェスティバルに参加しました。

学生会館では普段から各国の民族衣装を借りることができますが、当日も各自気に入った民族衣装を着て楽しんでいました。さらにコリア庭園で写真を撮ったり、民謡に合わせたダンスに参加したりと、とても充実した時間を過ごせました！

銀帆歩（写真右端）

10/19 OBOG会



OBOG会（正式名称忘れましたが🤔💡）がありました。日本で社会人として働くOBOGの皆さんのお話に、みんな興味津々でした。お話会のあとの交流会では、OBOG・現役関係なくたくさん話して、交流を深めることができました。

進村心花（写真中央奥）

※正式名称：卒業生の日本での仕事と生活の話を聞く会

なるほど!おもしろい! 世界のことは

～イタリア～

「Acqua Passata」 (アクア・パサータ)

私は小さい頃から何か悪いことが起こると祖母のところに行ってすべてを話していました。すると祖母はいつも私を安心させ、慰めてくれて、「アクア・パサータ! もう心配しないで!」と言ってくれました。すると私の気分は良くなりました。

今回私が紹介するイタリアの言葉はこの「アクア・パサータ」です。元の意味は文字通り「流れ去った水」で、英語の慣用表現「water under the bridge (橋の下の水)」のように使われます。この言葉は、「昔の喧嘩や間違い、過去の問題などの過ぎたことは"すでに終わったこと"なのでもう忘れなさい」と言うときに使われます。川で一度下流に流れた水は二度と戻ってきません! その水は永遠に失われます。このシンプルなイメージは、いつまでも古い終わった問題にとらわれ続けるべきではないことを思い起させてくれます。

この「アクア・パサータ」を選んだのは誰でも理解できるとても一般的で便利なイタリアの慣用句だからです。この言葉は、友人そして私自身にも「過去のわだかまりを捨て、すでに変えられなくなってしまったことを心配するのはやめるべきだ」ということを思い起させてくれる素晴らしいフレーズです。昨日のことではなく、今日に集中しましょう。今でも私は何か悪いことが起こると、まずは自分自身に「アクア・パサータ!」と言います。



ブルチーノ ソフィア
(横浜市立大学)

留学生に聞いてみました

YOUの日本留学の感想は?

困難の先にあった、日本での「ご縁」



私が日本に来たのは、2019年4月4日です。今振り返ると、そのタイミングで日本に来られたこと自体が、一つの「ご縁」だったのかなと思います。来日当初は日本語も十分ではなく、文化や生活の違いに戸惑い、不安を感じる日々が続きました。一人で生活する中で、うまくいかないことや、気持ちが沈むことも正直ありました。

それでも、日本に来たことを後悔したことはあまりありません。せっかく日本まで来たのだから、この経験が無駄にしたくない、そう思っていました。分からないことはそのままにせず、自分から聞く。失敗しても立ち止まらず、少しずつ前に進む。そうした日々の積み重ねの中で、日本語も生活も、少しずつ自分のものになっていきました。

勉強やアルバイト、国際交流活動を通して、たくさんの人と出会えたことも、私にとって大きな財産です。異なる価値観に触れる中で、自分の視野が広がり、日本で生活する意味を実感するようになりました。今思えば、そうした出会い一つ一つも、すべて「ご縁」だったのだと思います。

現在、私は横浜市国際学生会館（YISH）で生活しています。学校やアルバイトに出かける際に「いってらっしゃい」、帰ってきた時に「おかえりなさい」とスタッフの方々が声をかけてくださいます。その何気ない一言が、一人で日本で暮らす私にとって大きな支えとなり、YISHを「第二の家」、そして「家族のような場所」だと感じさせてくれます。

日本留学は、決して楽なことばかりではありませんでしたが、多くの学びと成長、そしてたくさんの「ご縁」に恵まれた時間でした。この経験を大切にしながら、これからも自分らしく、一歩ずつ前に進んでいきたいと思っています。

グエン タン ロン（ベトナム／横浜商科大学）

地域の支え合いパーティーに留学生が参加しました!

●アリム モハンマド アブドゥル [バングラデシュ] (写真左端)

恒例のコミュニティイベント「支え合いパーティー」が、2025年11月2日に開催されました。学生会館職員の呼びかけにより、私はバングラデシュ代表として、地元で親しまれている紅茶とビスケットを提供しました。この紅茶（生姜やミント、レモンを加えた紅茶）は好評で、すぐに完売しました。会場ではイランや台湾の料理や飲み物が紹介され、多文化が調和する温かな雰囲気広がりました。さらに、誰でも参加できるヨガや子ども向けのエコバッグ作りも行われ、世代を超えた交流が生まれ、文化交流にふさわしい充実した一日となりました。

●ジャヴァン マロド ザハラ [イラン]

(写真左から2人目)

11月2日の支え合いパーティーに参加でき、とても嬉しく思いました。私はイランのチキンスープを提供しましたが、皆さんが「おいしい」と言いながら飲んでくださり、イベント開始後すぐに完売しました。私自身も、たこ焼きやフランクフルトを味わいました。また、皆で非常食として日本のカレーライスを作り、一緒に食べました。バッグ作りや運動など、楽しい企画も数多くあり、地域の方々と過ごした時間は本当に素敵な思い出となりました。

